

## 板書

ノートと有機的に関連させる

黒板は「これからやる学習内容や学習したことを書き留めたり、あるいはそれを学習材にして新たな学びを創り出したりする、学習者と共有のメモの道具です。教室環境からいえば、時間とかかわって描く空間デザインです。学習が終われば消えてしまいますから、生徒のノートにどのように残すかというノート指導ともかわりません。いくつかの単元で、どのような学習をしたかがノートに残されていないなりません。生徒は板書をそのまま写し取るかもしれませんが、必要事項はもとより、文字、レイアウトにも気を配ります。

たとえば、時間とかかわって描く空間デザインです。学習が終われば消えてしまいますから、生徒のノートにどのように残すかというノート指導ともかわりません。いくつかの単元で、どのような学習をしたかがノートに残されていないなりません。生徒は板書をそのまま写し取るかもしれませんが、必要事項はもとより、文字、レイアウトにも気を配ります。

例2

- 一、「〇〇」について、グループで話し合う。
- ・司会は○番、記録は△番
- ・「話し合いの手引き」にそって
- ・時間—25分 記録は提出

これだけだと、自分の属するグループでの話し合いの中はわかっているも、ほかのグループの話し合いの様子・内容はわかりません。ですから、「話し合ったことを全体に報告し」さらに話し合う」「ノートにまとめる」ことが必要です。板書には、次のことを加えます。

板書には、その時間に行う学習の全容・内容・方法・時間配分・どこまでいけるか、できればよいのか（評価基準）を書きます。

例1

「走れメロス」を読み、感想を書く。提出。

板書はこれだけで十分です。ノートには感想が書かれ、提出され、教師はそれを見て評価の資料にします。

例4

- 一、先生の話聞いて
- 1 題をつける
- 2 一文に要約する
- 二、話し合っ「いちおし」を選ぶ。(板書)

学習は「聞き取りメモ」を使い、聞き取った内容を各自が1、2の学習で書き留めることから始めます。次に、グループに分かれて話し合い、グループの「いちおし」を決めます。決まったら板書し、それを見ながら質疑応答、討論をします。

黒板面上に学習を展開する

文学作品の読解・鑑賞などでよく用いる方法ですが、生徒との問答が進めながら、人物、時、場面など、キーワードや記号で関係づけながら作品構造図を作っていきます。

「書く」「話す」「読む」の学習にも、もっと黒板を使ってほしいと思います。

例3

「〇〇」ブレインストーミング

生徒は、カード(模造紙を短冊の形に切る)を一枚ずつ持ち、思いついたことをマジックで書き、黒板に貼り付けていきます。それをもとに、カードを移動させてグループビンゴなどの作業を行います。教師が最後の黒板面をデジカメに収録しておく。次の学習に使うこともできます。この方法は、カードを付せんに代え、OHP(OHC)に貼り付けるなどでも可能です。



右は、「釘の穴」と題する教師の話聞いて、グループごとに話し合っ決めて要約文を板書したものの。これをもとにさらに話し合っっていく。

(前大正大学教授)